

## ○ 運動・姿勢の障がい

姿勢・運動発達の未成熟や、正常発達では見られない異常な姿勢・運動パターンが見られることが多い。

- ・未熟な姿勢パターン 例)四肢の全屈曲/全伸展パターン、除皮質硬直姿勢、除脳硬直姿勢
  - ※ 除皮質硬直姿勢：上肢屈曲、下肢伸展 除脳硬直姿勢：四肢伸展
- ・原始反射が残存 例) 非対称性緊張性頸反射(ATNR) 緊張性迷路反射(TLR)
- ・異常姿勢と異常筋緊張
- ・筋緊張の亢進(痙直/痙縮、固縮/剛直/硬直)、低下(低筋緊張/弛緩)、変動、左右差
  - ※ 痙直/痙縮：他動的に屈伸した時に、初期に抵抗が大きく、後半に抵抗が急に減弱する。
  - ※ 固縮/剛直/硬直：他動的に屈伸した時に、終始抵抗が見られる。
- ・姿勢変換への抵抗、姿勢保持の困難

### 観察ポイント

#### 【自然な状態での姿勢・運動】

- ・全般的な活動性
- ・随意運動の部位とその範囲
- ・不随意運動の有無と種類
- ・左右差(非対称性)
- ・頭部や体幹の支持性
- ・抗重力姿勢の保持の程度
- ・分離運動や協調運動の有無
- ・目と手の協応
- ・手の機能

#### 【姿勢反射】

- ・原始反射の姿勢への影響
- ・立ち直り反応、平衡反応の発達レベル

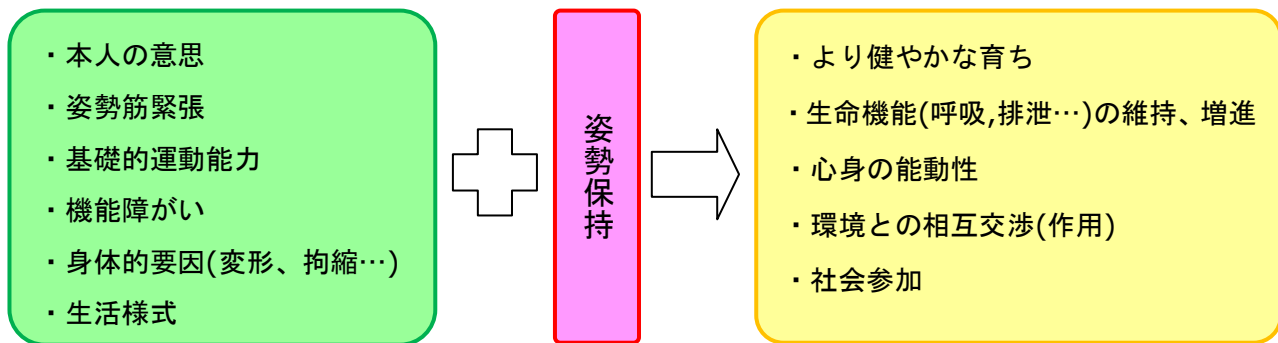
#### 【筋緊張の状態】

- ・安静時の筋の硬さ、伸展性、被動性
- ・姿勢筋緊張(姿勢における四肢、体幹の筋緊張)
- ・筋緊張の状態(亢進/低下/変動)

#### 【障がいの部位、範囲、程度】

- ・精神状態 ・知的障がいの程度 ・筋力
- ・筋委縮 ・感覚・コミュニケーション能力
- ・不随意運動 ・協調運動 …

## 姿勢保持の意義



### 【参考文献】

- ・ 重症心身障害療育マニュアル第2版  
江草安彦 監修 医歯薬出版株式会社